

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500115		
法人名	NPO法人健寿会		
事業所名	グループホーム明香里		
所在地	熊本県天草市二浦町亀浦1066番地6		
自己評価作成日	平成26年2月7日	評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季が感じられる大自然の中で、季節を感じながらゆっくりと過ごして頂いています。ホーム全体を落ち着ける佇まいとし、皆さんが、一緒に過ごされる居間も、ご自宅と同じようにくつろげる空間を作っています。また、このホームは古きよき風習が残っている地域にあり、地域の理解と体制の下、日々の生活を送らせて頂いています。その中で地域の交流を盛んにし、地域行事への参加と共に地域に住む方々との交流行事への参加をさせて頂いています。散歩、調理等の生活主体者としての参加、そしてご家族との深い交流等にも力を入れています。地域住民の一員として、“認知症になっても安心して暮らせる地域づくり”を目標に、地域住民を巻き込みながら積極的に様々な活動を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者の「この地で開設したい」との情熱が人々の心を動かし、現在では地域福祉の拠点となって運営を展開している。保育園跡地での「喫茶あかり」の開放は地域を巻き込んだ交流の柱となり、地元消防団や地区代表者が企画する自主防災訓練への参加・協力をはじめ、ホーム自体が地域の一軒家としてそこに根をおろし生活している。105歳という最高齢の男性入居者が自立した生活の中に、老人会の草刈り作業にも参加するという快挙は人々に温かく見守られている他、法人の配色サービスへの同行を日課とする方や、リビングでチラシを見ながら好みの商品を目当てに買い物に出かけるなど、何気ない暮らしが日常となっている。自然豊かな海や山の恵みは入居者の食を豊かにし、相談しながら料理をすることでその方の生まれ育った地で生きる喜びや自信となって笑顔を引き出している。短時間であっても訪れる者にも安心感が伝わり、この先も変わらぬ「明香里」であって欲しいと心から期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づいて実践を行っている。管理者、職員が戸惑った時の拠り所として、理念に立ち返り、どうあるべきかを考え、常に前進できるよう努めているが、職員の入れ代わりにより、認識に差が感じられる為、今後、すべての職員で理念を共有し、実践に繋げていく必要がある。	開所当時からの理念には一人ひとりの入居者への尊敬の念と、その思いとことん寄り添いながら地域と共存し、そこに灯るあかりのような存在になりたいという熱い思いが込められている。職員は毎朝のミーティングで理念に立ち返り、自己を振り返る原点として位置づけている。管理者は法人内の異動が多かったことで、新たに配属された職員に理念に基づくホームの方針を伝え、先ずは入居者との信頼関係を築くことからスタートするよう導いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の商店までの買い物や、散歩などで日常的に交流を行っている。地域行事等へも参加している。(運動会、秋祭り、老人会奉仕作業など)また、月に一度の喫茶明香里では、様々な催し物を開催し、地域の皆様に喜んで頂いている。小組合いの日帰り旅行にも参加している。	地域の拠り所となるような法人運営を目指し、開所前からの啓発が功をそうしており、人々の心ある支援が随所に表れている。毎月オープンされる「喫茶あかり」は地域交流の場として馴染みの劇団によるショーや、地域の作品展、老人会や婦人会の手作り料理が安価で提供されるなど、今では地元にならぬ存在となっている。古くから続く神社の秋祭りには前日から職員が手伝い、入居者が子供神輿に拍手を送るなど地域の一員としてその活動はしっかり定着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	子供会、老人会、ご利用者とのクリスマス会を行ったり、地域での、介護教室や、徘徊模擬訓練を行うなど、認知症の人への理解や支援方法を一緒に考え、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを地域住民を巻き込んで行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状態や生活状況については、映像等を活用しながら報告を行っている。また、地域交流状況や地域行事についての意見を引き出し、出た意見をご利用者の生活の質の向上と、地域住民の為に活かせる努力をしている。	二か月ごとの定期開催が実現しており、地域代表者や法人職員が多数参加している。ホームリビングを会場とすることで参加者が、入居者の日頃の様子を直接目にし、現状把握や意見の拡充にも繋がっている。会議の進行やパワーポイントを使った状況報告などを職員が輪番で担当し、責任をもって参加している。独居者の情報に地域全体で支えていくことなども協議されている。	会議には家族の代表者が毎回参加しているが、他の家族へも継続して参加を促すことで広く意見の収集を図り、運営に反映されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員として包括から参加して頂いている。また、会議録等を含めた資料を運営推進会議後には、提出を行っている。事業所主催で行う徘徊模擬訓練への参加案内も行っている。	管理者は包括職員へ推進会議の案内状を直接手渡し、互いの情報を交換しながら友好的な関係を築いている。三月初めに予定している「徘徊模擬訓練」には消防団や同業者に呼びかけ、地域ぐるみで行う事が予定に組まれている。推進会議の議事録と共に広報誌「明香里だより」を行政に提出し、ホームの透明性を図りながら情報を発信している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での身体拘束についての研修会、外部研修参加を行い、職員一人一人が理解した上でケアを行うようにしているが、認識に差があるため、色々な状況に応じて話し合いを行うようにしている。	法人研修ではスタッフが資料を作成し率先して参加している。新人職員にはトイレ介助の際など、一人ひとりに違う支援が必要であることをケアの中でその都度指導している。リスク回避のためであってもセンサーマットに頼らない支援を基本としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会において虐待防止関連法について勉強し、お互いに「これ、虐待にならない？」と声を掛け合いながら、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ひと通りの研修は行っており、制度の事は知っているが、職員の認識に差があり、今後も研修が必要である。現在まで、支援するに至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に、ご本人やご家族のお気持ちをお聞きした後、記録に残している。また、契約については、十分に説明を行い、納得されたから、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	病院受診の報告や家族会(稲穂会)や面会時に意見を聞きとるようにしている。また、運営推進会議にも、ご家族の代表に出席して頂けるようお願いし、外部者との意見交換ができるように配慮をしてしている。	年数回の家族会の席や面会時には入居者の現状を伝えながら、忌憚のない意見をもらうよう促している。平成22年より徐々に進められた夜間入浴への移行は、家庭生活の延長として薬を使わず入居者に安定した睡眠時間を提供することを目的とし、家族に了解を求めながら進められた。入居者との会話は必ず腰を下ろして行き、「どんな事をしたいですか?」「がまんせんでいいですよ～」と、分かり易く問いかけ思いを引き出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、代表者や管理者を交えての会議を開催している。また、毎日のミーティングに管理者が参加し、職員からの意見等を代表に伝え、反映できるように努めている。	代表者や管理者は職員との個人面談で意見や相談事に耳を傾け、個人の仕事への姿勢が活かされるよう業務分担にも反映させている。入居者がどう思っているかを常に考えられるような人材や、ヒヤリハットが続いた際には危険な物を排除するだけでなく、入居者が何をしようとしていたのか、その背景に目をやることのできる職員を育てたいと代表者は語っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談、ボーナス時の自己評価表など、やりがいのある職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	はい。法人内の研修会を毎月開催。研修発表を担当制で行っている。外の研修は、研修案内を回覧し、研修を受ける機会を多くしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	遠く近くに関係なく、希望に応じて他施設訪問の機会を作ったり、同業者の集まり(忘年会、研修会など)へ参加する機会を設け、サービスの質が向上するよう取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。入所前にご本人にお会いし、コミュニケーションを図り、本人の不安の解消や、今後の生活に対する意向の確認を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。上記同様に入居前面接等により、ご家族のご本人に対する思いや、当事業所に対する要望をお尋ねし、それに、添うような生活支援をできるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。入居前面接・面談等を密に行い、広い視点からの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	だいぶん築けてきていると思うが、「暮らしを共にする」「という視点と「生活の主体者はご利用者」という視点を持ち、関係作りを行っているが、職員の入れ代わり等で、職員の認識に差が見られる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努めている。ご家族の意向を伺ったり、ご自宅と一緒に何う等しながら、ご家族との絆を大切にした支援を行っている。また、面会時や定期受診後の連絡時には、日頃の生活の様子や状況をお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。ご自宅へお連れしたり、近隣の方を含めた地域の方々や、ご兄弟、親戚の方々に、ご家族と共に会って頂く機会を作っている。また、行きつけの病院や美容室にお連れしたりしながら、馴染みの関係が途切れないように支援を行っている。	ホームが地域との繋がりの重要性を問い続ける中で、馴染みとなった「喫茶あかり」に出かけたり、小組合いの日帰り旅行に同行する等の関係が続いている。地元での理・美容支援には家族や親せきの送迎協力が得られる他、入居者の希望でお墓参りや自宅での仏壇参りが行われている。職員は入居者が使い慣れた鏡台や杖を家族の了解を得てホームに持ち込むなど、使い勝手の良い馴染みの品が入居者に安心感を与えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。居間を中心にご利用者同士が集える場を多く作り、関わりが持てるように配慮を行っている。また、掃除や調理など出来る事をしていただき、それぞれの役割を持って生き活きと生活を送って頂ける支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。入院が長くなっても、お見舞いに行ったりしながら、支援を行っている。また、お亡くなりになってからも、運営推進委員の委員になって頂いたり、ご家族との関係の継続を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。理念のひとつ「あなたの思いにとことん考え とことん付き合う」の下、お一人おひとりの思いを大切に考え、それを把握する機会を日常の中でも多く持ち、「思い(想い)」を常に考えながら支援を行っている。	ホームは入居者と寄り添いゆっくりに関わる時間を大切にしており、食事を共にする中や、散歩時などその方が一番リラックスされている時に思いや意向をくみ取っている。また、家族との連携や職員との共有を図り、その時の思いに応えることが出来るプラン作成に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後とご家族や地域の方々とお会いできる機会には、生活歴等の把握に努め、これまでの生活をそのまま継続できるように配慮をしている。入居前に利用されていたサービス事業所とも連携をとり、スムーズに生活が移行できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。今後ももっと、ご利用者お一人おひとりが有する力を気付ける観察力をつけていけるよう、努力していきたいと考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については、作成前に、ご本人、御家族、主治医に意向や意見を尋ね、現場の職員と共にモニタリングを行い、介護計画に反映できるように努めている。	入居者の喜びの表情や何気ない一言は職員の気づきとなって記録され、家族の情報と共に必要な支援をプランにあげている。定期的なモニタリングで評価しながら内容を見直し、現状に即したプラン内容としている。面会時にはリビングで入居者の様子を見てもらいながら、何か気づかれたことはないか？表情は変わりないか？など、些細なことでも伝えてもらいプランに活かすよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践についての記録は、なされているが、結果、気づきについては、職員に差があり、なかなか、介護計画の見直しに十分活用できていない場合があり、今後、きちんと反映できるようになることが、課題である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応えようと日々頑張っているが、個人のADL等によって偏りが見られる。また、併設の通所事業所と連携をしながら、サービスの多様化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中を散歩したり、地域の方々と一緒に運動会、秋祭り等の地域行事参加を行っている。また、二カ月に一度食堂開店のお手伝いをしたりと、地域貢献も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医を尊重し、入居後の継続して受診支援を行っている。また、受診の前後には、ご家族へ連絡をとり、受診後は結果等の報告を行っている。	これまでのかかりつけ医を継続して支援し、受診はホームで対応しているが、突発的な場合は家族へも同行をできないか確認を行っている。入居後、病状や終末期支援に向け変更される場合は本人・家族・職員も安心できるよう、医療機関や医師との連携や引き継ぎを十分に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師がいないため、日々の体調の変化等に配慮し、異常があった場合は、主治医との連携をとり、情報交換等により支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、サマリー等による情報の提供、退院時には、医療機関からの情報収集等を連携を取りながら行っている。また、日頃より、定期受診に、病院関係者とは生活状況や気になる点等を相談するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会等でも重度化、終末期に当ホームで、できること、できないことについて、の説明をしている。また、個々のニーズにお応えできるように、看取りを希望されるご家族とは、スタッフを交えて、ご家族からの希望等をお聞きしている。	本人が元気でおられるうちに重度化・終末期支援について話しを行っており、実際、家族会などの中でホームに出来る支援について説明されている。看取りを希望される場合は必要な時点で職員と一緒に話し合いを行い、往診診療の協力を得ながら思いに沿った支援でその方の最終を支えている。	人生の最終の場面を共に過ごし支えるというすばらしい介護の現場で、今後も職員のメンタル面にも配慮しながら、ホームに出来る支援が継続されることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等を行い、だいぶん、理解してきているが、職員の入れ代わり等で、理解に個人差がある。どうしても、実践力に欠けている部分を感じられる。今後も定期的な研修と訓練を行い、実践力を身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民(近隣の方々や消防団)を交えての避難訓練(夜間訓練を含む)の実施や地域の自主防災訓練等への参加、消防団との消火ホースの連結、消火訓練など、積極的に行い協力体制を作っている。	ホームは日頃から地域との関係構築に努めており、避難訓練では地域・消防団も参加し行われている。また、地区の防災訓練でもホームの火災を想定して実施された他、雨天で中止になったものの、津波の場合入居者の避難で併設デイサービスまで運ぶ訓練が計画されたことに、代表者・管理者は感謝の気持ちを語っている。	消防団にホーム内を見てもらったり、入居者の状態を地域の方々が理解されているなど、信頼関係のもと協力体制が構築されている。今後も変わらぬ関係継続や有事のための食備蓄への取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に分かりやすい言葉や、親近感溢れる方言等を交えながら、丁寧な言葉かけに努めている。また、上から目線と言わない、不在と分かっているにもかかわらず入室する。入浴支援時、同性を希望されるご利用者は、同性での対応を行いプライバシーの確保を行っている。	職員は入居者にとって馴染みの方言を使用しながら、失礼にならないよう丁寧な言葉使いを心掛けている。また、入室時のノックの徹底や、同性介助希望にも努めている。食事支援においても、毎回ご飯の量の確認や、重度化されても安易にミキサー食とせず、自歯があればその時のメニューによって提供方法を検討したり、丼物やチラシ寿司も白ご飯と別にするか尋ねる等、個々を尊重した細やかな対応の場が確認された。	入居者の日々の生活は一人ひとりに応じ細やかな支援が展開されており、今後も変わらぬ取り組みが継続されていくことに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴希望の決定、外出、散歩のご希望も必ず、ご本人にお尋ねしてから支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床時間から、一日の生活に至るまで、お一人おひとりのペースを考慮しながら、毎日の生活リズムが作れるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の洗面・整髪等の支援も無理なくできている。普段着と外出着の違いをハッキリさせ、気分を変えて頂けるよう配慮を行っている。(着用の衣類もご希望を尊重するようにしている。)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりが出来る事を把握し、野菜の皮むき、切込み、盛り付け、茶碗洗い、茶碗拭き等、職員と一緒に取り組むように、個別に支援を行っている。	旬や地元の食材(刺身やアオサ・生蒲鉾・イリコだし等)を活用し入居者が楽しく、喜んでもらえるような食事支援が行われている。外出を兼ね、地元の神社におやつやおにぎりを持って出かけたり、一日の赤飯や買い出しから取り組むサンデークッキングなど多様な取り組みをしている。入居者は魚の美味しい食べ方を提案したり、魚さばき・食材切り・フライのパン粉付け・茶碗ふきなど男性利用者もできることで食に関わっている。まるで大家族のような雰囲気の中、職員も見守りや介助を行いながら会話の弾む食事の場面は実に温かく、ついつい食が進んでしまうほどであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の把握に努め、記録に残している。栄養のバランスを考えた献立を作り、季節の古き行事等に合わせた献立も考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の誘導を行い、必要に応じた支援、見守りにより、口腔ケアの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンでのトイレ誘導を行っている。その成果により、紙パンツ使用が減り、布パンツ使用が多くなっている。また、皮膚の状態も良くなっている。	自立の方の継続や一人ひとりの排泄パターンに応じた声かけ、誘導により外出時は紙パンツを使用される方も日中は布下着で過ごされている。不快を感じる事ができる、皮膚にも負担がないなど布下着の持つ機能から、この支援が継続できるよう職員間で個々に応じた支援を充実させている。また、トイレ内を清潔にすることも自立に繋がることから、いつでも気持ちよく利用できるよう掃除や確認が行われている。使用しない時間帯のポータブルトイレは居室から出し、クロスで覆うなどプライバシーにも配慮した対応である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、食事や水分量の調節で便秘を予防するように努めている。また、起床後の冷水や牛乳の飲用、腹部マッサージ等、便秘予防に努めている。水分量のチェックを行い便秘等に細やかな対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望の時間に合わせて、夜間の入浴を楽しんで頂けるように努めている。(ご自宅での入浴時間に合わせ、夕食を挟んで前後での入浴時間を取り入れている。)	入居者のこれまでの入浴状況に合わせ、平成22年後半より徐々に夕食前後での夜間支援に取り組んでいる。夜間入浴に取り組む時は必ず家族への説明のもと実施しており、日中の支援時より安眠に繋がるなど入居者にとって何よりの成果となっている。清潔に管理された浴室からは星空や月を眺めながら露天の気分を味わうこともできる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者のご希望のスタイル(これまでの生活習慣等を考慮)に合わせ、自由に休憩して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食前後の薬の服用については、名前・日付け・何食分の薬かを声に出してご本人に確認した後に必要に応じた援助を行い、服用して頂いている。個々の薬の目的や副作用についての理解は、職員により差があるため、都度、説明を行い理解できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族からの情報等により、知った生活歴やこれまでの趣味等を基に職員と一緒に活動(洗濯物干し、たたみ、花の水やり、掃除等)を行っている。また、生活の中での気付きを新たな役割として行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に合わせて、散歩やドライブを日々楽しんで頂けるよう努めている。昨年度より、地域の小組合いの日帰り旅行にも、希望者の参加を行っている。	新聞広告を見て愛飲の飲み物を購入に出かけたり、散歩コースを変え日に二回外出される方、仏壇参りやご家族の命日の墓参では安心した表情になられたようである。居室にはこれまで家族と出かけた国内・外の写真や思い出の品が飾られており、今でも家族は旅行の際に必ず本人の意向を尋ねられており思いが伝わってくる。また、地域の信頼もあつく、数多くの協力を得ながら外出支援が展開されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望にて受診代やおやつ代(日用品代)をご家族より預かり管理している方と、ご本人の力に応じてご自身で管理される方に分かれている。希望があると近所のお店まで買い物にお連れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の時は、電話口までご本人をお連れし、話しをして頂いたり、希望時には、電話をかけ話して頂いている。時節柄、年賀状の送付やバレンタインデーには、手作りチョコに言葉を添えての送付の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、台所で共に調理し生活においを感じたり、生活感や季節感が感じられる空間作りに心掛けている。ソファやこたつ等をしつらえ、好みの場所で心地良く過ごして頂けるよう支援している。	海風を感じながら地域の中に建つホームは、書棚や階段引き出しなど数々の古民具が配置され、季節の花や植物と共に心落ち着く空間である。食後、すーっと席を立ち洗面所に歯磨きに向かわれる最高齢者、長ホウキを手にして床や小幅の淵まで丁寧に掃除される入居者など、いつもの場所で、いつものように、自らの行動ができるホーム環境が整えられている。この風景からも、職員による細やかな日々のケアそのものが、利用者・家族、地域にとっても居心地の良い環境であることが窺える。	今後も入居者をはじめホームを訪れた者にとっても、安心できる穏やかな空間作りが行われていくことに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居室、リビングのソファやこたつ、廊下、テラスには、ベンチや椅子等を置き、その時の気分で、好みの場所でくつろげる様な空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前にご自宅を訪問し、使い慣れた品をお持ち頂くようお願いしている。それによって、ご本人様の馴染みの物や使い慣れた物(タンス・布団・鏡台・写真等)を居室にしつらえている。	入居者がこれからホームでゆっくりと過ごせるよう、入居前に自宅訪問の機会を設け、馴染みの品や趣味の品などの持ち込みを依頼している。和・洋室に応じた照明機器が設置され、山や田畑など、どの部屋も心落ち着く見慣れた風景である。面会にも繋がるよう衣服の入れ替えは家族にも声をかけ、気づかれた点を共有しながら一緒に居心地良く過ごせる環境を進めている。思い出の鏡台や家族写真の持ち込み、ポット・急須・茶葉が準備された部屋でお茶を楽しまれる入居者もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>職員と一緒に調理(魚おろし・野菜の下ごしらえ・切る等)や洗濯(干し・たたみ等)掃除(掃く・拭く等)の日常生活が安全に送れるよう環境作りを行っている。</p>		